

日本遺伝看護学会

事例から考えよう：がん看護臨床と遺伝 －コンパニオン診断とがんゲノムを例に－

コンパニオン診断、がんゲノム医療普及とともに、がん看護臨床において、「遺伝」に関わる場面が日常的になってきました。

本企画では、がん看護において必要な遺伝看護的視点を、事例をもとに紹介とともに、遺伝医療職との協働の在り方の一例を示します。

受講料

無料

開催方法

対面

【日時】 ▶▶▶ 2025年10月19日(日) 10:15-11:45

【対象】 ▶▶▶ がん看護・遺伝看護に関心ある医療者・医療系学生

【申込】 ▶▶▶ 2025年10月18日(土) 12:00まで(先着40名)

<https://jsgn-seminar1019.peatix.com>

【会場】 ▶▶▶ 相良病院11階はくあいホール

〒892-0833鹿児島市松原町3番31号

<https://www.sagara.or.jp/access/>

お車でお越しの際は近隣の駐車場をご利用ください。

駐車料金は自己負担となりますことをご了承ください。



申込QR

内容(予定)

事例1 BRCAコンパニオン診断

治療選択をきっかけにHBOCと診断され、現在進行形の治療に加え、自身のリスク管理、家族への継承と、様々な考えることが一気に訪れた患者への看護を考える。

事例2 がんゲノムプロファイリング

がんゲノムプロファイリング検査の結果、二次的所見で遺伝性腫瘍が指摘された患者への看護。治療法が見つからなかったことに対する失望・悲嘆へのケア、患者にとっては想定外であった検査結果を家系員と情報共有することに関するニーズの把握や遺伝カウンセリングへの導入を考える。

西垣昌和

国際医療福祉大学 教授 看護師・保健師・認定遺伝カウンセラー

西光代

相良病院 看護師

青木美紀子

聖路加国際大学大学院 准教授 看護師・認定遺伝カウンセラー

問合せ

日本遺伝看護学会事務局 E-mail: info@idenkango.com